

超伝導微細加工素子を用いた精密物性測定と 量子デバイスへの応用

理工学部物理科学科 北野 晴久

超伝導の不思議さを活用する量子技術の開発を目指しています

超伝導のゼロ抵抗(永久電流)は、古典物理では説明でき ない不思議な現象です。超伝導状態は、原子内の電子と同 様に量子力学で記述されます。例えば、ゼロ抵抗で電流を 輸送する超伝導電流密度は、超伝導の量子状態を表す巨視 的な波動関数の空間変化によって与えられます。

超伝導デバイスは、現在の半導体デバイスに比べ、低消費 電力だけでなく、高感度性や高速応答性に優れ、様々な分 野での活用が今後、期待されています。

$$\boldsymbol{j}_{s} = \frac{e^{*}\hbar}{2mi} (\boldsymbol{\Psi}^{*} \nabla \boldsymbol{\Psi} - \boldsymbol{\Psi} \nabla \boldsymbol{\Psi}^{*}) - \frac{e^{*2}}{m} |\boldsymbol{\Psi}|^{2} \boldsymbol{A}$$

超伝導のゼロ抵抗は、磁束量子の運動や超伝導波動関数の 位相スリップなど様々な理由で破られてしまいます。我々 は、外部から供給される電流がゼロ抵抗で輸送される非平 衡な超伝導状態を詳しく調べるため、超伝導電子対の超高 速な運動自体が超伝導状態を破壊する、対破壊電流密度 (depairing current density)の測定に挑戦しています。

通常の試料形状では、自己磁場による磁束量子の侵入を抑 えることが出来ず、電子対破壊領域に到達するよりも遥か に小さい電流密度でゼロ抵抗が破れてしまいます。我々は、 集束イオンビーム照射による微細加工を駆使し、微小な超 伝導ブリッジ素子を作製することにより、層状超伝導体の 鉄系超伝導体単結晶に対する面間対破壊電流密度を初めて



低温まで測定することに成功しました。





固有ジョセフソン (SQUID) (量子暗号通信) 接合素子(IJJ)

我々は、透過電子顕微鏡用の試料作製手法として利用されて きたFIBピックアップ法を応用し、微小な単結晶試料片の取 の出しと微小ブリッジの作製にも成功し、清浄な金属-超伝 導界面で発現するアンドレーエフ反射の観測に成功しました。

FIB-pickup method



T. Miyazawa et al., J. Phys.: Conf. Ser. 1975, 012010 (2021).





今後は、鉄系超伝導体の超伝導微小ブリッジ素子を用いた単一光子検出の実験に挑戦し、将来の量子センサー技術の 開発に役立てたいと考えています。



高性能高温超伝導バルク磁石の開発

理工学部物理科学科 下山淳一、元木貴則



REBCOと呼ばれる希土類系の高温超伝導体(REBa₂Cu₃O_{7-δ})は、90 K (-183°C)級の超

伝導転移温度を示すことから、液体ヘリウム(-269℃)を必要としない強磁場発生 や大電流送電に向けた研究開発が盛んに行われています。本研究では、REBCO 材料を大型の単結晶状に独自の方法で結晶成長させたバルク材料を開発し、永久 磁石よりはるかに強力な磁石としての様々な応用を目指しています。



REBCO高温超伝導バルク磁石は、材料全体を単結晶状に成長させる必要がある ことから、結晶成長に非常に長い時間を必要とし、高性能な大型バルク育成が困 難でした。我々は、一方向溶融成長(Single-Direction Melt Growth, SDMG)法とい う大型で高性能なバルク磁石を短時間で育成可能な手法を開発しました。結晶成 長が一方向のみに進行するため、従来法では難しいリング形状といった複雑形状 のバルク磁石の直接育成も可能です。



SDMG法を用いて、世界最大級の直径60 mmを超える大型のバルク磁石の育成に 成功しています。高性能な大型高温超伝導バルク磁石開発を通じて、例えば液体 ヘリウムを必要としない小型NMRの実現など、超伝導材料を用いたこれまでにな い技術の社会実装を目指しています。



一方向溶融成長(SDMG)法による 複雑形状バルク磁石作製の模式図

SDMG法で育成した 大型バルク磁石 (直径~60 mm)

T. Motoki et al., Appl. Phys. Express 16 095501 (2023) T. Motoki et al., Supercond. Sci. Technol. 37 115019 (2024) 高温超伝導REBCOバルク磁石の 期待される応用領域



無機薄膜の高次構造制御による高度な機能の発現 理工学研究科・機能物質創成コース 重里有三・金 旼奭

1. Background

Thermal switching technology^[1]

Technology to control heat flow by switching between low and high thermal conductivity.



Crystal structures, Electrical or thermal properties can be controlled by external fields. Switch performance (the ratio of thermal conductivity on On/Off states) exceed more or less 3.

To improve the thermal switching performance,

As the switching mechanisms, we focused on changes in the dominant heat carrier. Previous studies, e.g., VO_2 , have not been able to increase the thermal conductivity





GdH₂ Dehydrogenated state GdH₃, Hydrogenated state

Hydrogenation

(Metal)

(Semiconductor)

thermal resistances and thermal resistances of each layer.

Measurement procedure ▼ Gd, fcc • Gd, hcp

with the hydro-/dehydrogenation reactions.

dehydrogenated state

Variation of Gd crystal structures with hydro/dehydrogenation^[4]

Hydrogenation

Gd, (Metal)



hydrogenated state as anticipated.

6. Electrical conductivity changes

Electrical conductivity obtained by Van der Paw method with the synthetic resistance model of parallel circuits



Note: For the electrical conductivity calculation, Gd layer thickness is corrected based on the volume expansion accompanied with hydro-/dehydrogenation reactions as follows.



The alteration layer exists under the Pd layer, whose thickness does not change through the hydro-/dehydrogenation reactions.

6. Summary and References

Thermophysical properties

The total thermal resistance of hydrogenated state is found to be $3.1 \times 10^{-8} \text{ m}^2 \cdot \text{K} \cdot \text{W}^{-1}$ larger than that of the dehydrogenated state.

Crystal structures

The crystal changes from Gd to GdH₃ and then to GdH₂ are observed.

Electrical properties

Based upon WFL, free electron's contribution to the thermal conductivity for the dehydrogenated state (GdH₂) is estimated to be 9.1 W·m⁻¹·K⁻¹, while that of the hydrogenated state (GdH₃) is small.

| Reference 112 on with Wie | + 4.2% 117 | + 7.4% 120 Franz I aw |
|---------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 112 on with Wie | 117 edemann- | 120 Franz Law |
| on with Wie | edemann- | Franz Law |
| Hydrogenate | ed Dehy | drogenated |
| state | 5 | state |
| 0.3 | | 9.1 |
| | Hydrogenate state 0.3 | Hydrogenated Dehy state 0.3 |

<u>Comparing hydrogenated state with dehydrogenated state</u>, Increase in the total thermal resistance at hydrogenated state is considered to come from the lower thermal conductivity due to decrease in electrical conductivity.

Future works

Measure heat capacitances of Gd, GdH₂ and GdH₃. Calculate the thermal conductivity in each state. Further investigation on the Gd deposition conditions to maximize the changes in thermal conductivity.

[1] G. Wehmeyer et al., Appl. Phys. Rev., Vol. 4, (2017), 041304., [2] Hinako Kizuka et al, Jpn. J. Appl. Phys. 54, 053201, [3] K. Yoshimura, J. Vac. Soc. Jpn., Vol. 57, No. 3, (2014), pp. 84-90., [4] Adachi Ginya, [KIDORUINOKAGAKU], KAGAKUDOJIN (1990)., [5] R. Inaba et al., Proc. of the 42nd Japan Symp. on Thermophys. Prop., Sapporo (2021), B315. [6] R. V. Colvin et al., Phys. Rev., Vol. 120, No. 3, (1960), pp. 741-745., [7] J. P. Burger et al., J. Less-Common Met., Vol. 103, (1984), pp. 381-388.

"Thermal conductivity switching in Pd-catalyzed Gd and GdH2 films upon gasochromic hydrogenation and dehydrogenation",

Riko Hirata, Yuichiro Yamashita, Takashi Yagi, Makoto Kashiwagi, Satoshi Takeya, Yuki Oguchi, Fabio lesari, Toshihiro Okajima, Naoyuki Taketoshi and Yuzo Shigesato, International Journal of Thermophysics (2024). https://doi.org/10.1007/s10765-023-03322-y or https://link.springer.com/content/pdf/10.1007/s10765-023-03322-y.pdf.



動物の高次生体機能

理工学部化学•生命科学科 平田普三

生物は知覚、記憶、学習、情動、判断といった高次機能をもちあわせています。 これを可能にするのは神経系です。では、神経系はどのように形成され、これら の機能を発揮するのでしょうか。私たちはゼブラフィッシュという熱帯魚をモデ ルとして、神経系による高次機能の解明を進めています。ゼブラフィッシュを用 いた行動実験から、たった1つの化学反応がシナプス(神経細胞間の接続部分) におけるタンパク質動態を変化させて、動物の行動変化を引き起こし、これが環 境適応を可能にすることを明らかにしました。また、ゲノム編集技術CRISPRを用 いて、さまざまな高次機能障害の魚を作り、病態発症のメカニズムを解明してき ました。脳が過剰興奮することでてんかん発作を発症する魚を作製し、その症状 を軽減する化合物のスクリーニングから、てんかんを改善する薬の創造も行って います。これらの脳科学研究を通して、ヒトが健康で豊かな生活を送れるよう貢 献してまいります。

毒性試験でのゼブラフィッシュの使用

魚をモデルとしたサルコペニア





筋量を定量化するシステム





ヒトと同様のサルコペニア症状が観察される

魚モデルを用いたてんかんの定量評価







加齢に伴う運動能力の低下

運動能力を測定するシステム:スイムミル

klotho +/+ 正常個体 Control

klotho -/-

早老個体





運動能力から老化の進行を予測できる 抗老化成分の代替動物実験



屋内環境用高効率ペロブスカイト太陽電池の開発

理工学部電気電子工学科 石河 泰明·來福 至



*c-Si SC: crystalline Si solar cell, a-Si: amorphous Si, CIGS: CuInGa(Se,S), DSSC: Dye Sensitized Solar Cell,

◆屋内用光電変換素子(太陽電池)としてアモルファスSiが利用されているが、変換効率はあまり高くない。 ◆現在屋外で利用されている結晶Si系や化合物半導体系は、低照度環境に適していない。 ◆屋内環境で高い変換効率が実現可能なペロブスカイト太陽電池がIoTデバイス用電源として期待されている。





先端素子材料工学研究室 次世代エレクトロニクスデバイスの創成を目指して

理工学部電気電子工学科 黄晋二

グラフェン 厚さ原子1層分の2次元シート炭素材料 高可視光透過率 (97.7%) グラフェンの メタルフリー 透明導電膜としての フレキシブル性 制御可能な電気特性 デバイス応用











スクリーン版を 基板から離す Cu 箔へ転写 基板へ転写 3層積層グラフェン 大気雰囲気中で 一定の温度で乾燥 スピンコート法 スクリーン印刷法 Ir薄膜上へのグラフェン成長 導電性インク 浸漬 CVD成長 電気化学的剥離 Graphene/Ir(111)/ α -Al₂O₃(0001) 超音波下 20 min 露出部のみに インクが堆積 インクを吸引 α-Al₂O₃(0001) $Ir(111)/\alpha - Al_2O_3(0001)$ 乾燥、焼成 メンブレン紙 転写 再利用 エピタキシャル成長 導電性布 Graphene/SiO₂/Si Dip and dry法 Ir成膜用MBE装置 吸引ろ過法 Ir(111)/a-Al₂O₃(0001)基板 再利用プロ セス デバイスに応用する ヒーターへの応用 高周波デバイスへの応用

10 mm

100 µm

[1] S. Kosuga, et al., AIP Adv., **11**, 0037907 (2021).

[2] S. Kuromatsu et al., Eng. Res. Express, [3] Y. Horita et al., Cellulose, **30**, 1971-1980 (2023). **6,** 045367 (2024). [4] Y. Horita et al., Jpn. J. Appl. Phys., **63**, 04SP01 (2024).

免疫分析センサ

高周波ノイズの低減に関する研究開発

理工学部電気電子工学科 須賀良介

<u>パッチ配列電波吸収体の任意の偏波及び入射角度におけるSパラメータ推定</u> 4つの入射角度におけるSパラメータを用いた 任意の偏波及び入射角度におけるSパラメータの推定

•軽量 •簡易構造

自由空間との入出力

押野隼也,松本壮太,須賀良介,荒木純道,橋本 修,"6ポート回路モデルを用いた任意の偏波及び入射角度における円形パッチ配列電波吸収体のSパラメータ推定,"信学技報, EST2021-75, pp.93-97, Jan. 2022.

高速3D造形のマルチモーダルセンシングと ロボットモーションコントロール

理工学部機械創造工学科知技能ロボティクス研究室 田崎良佑 石川慎一(博士後期課程)

2.3D造形プロセス中の精密力計測

6 DOF

Robot

arm

Stepper

motor

Nozzle

鋳造やパテ塗りなどの液体 材料を塗布する生産工程は、 熟練技能者の高度なスキル よって実現されている

本研究ではマルチモーダル センシング技術を応用した ロボットモーションの制御 によって、液体材料を扱う 精密加エシステムの高度な 自動化技術を達成する

3. パテ塗り工程の自動化に向けた技能解析

精密な計算流体力学解析によ り、流動や圧力変動の挙動を 観察し、ノズルの運動や材料 特性が造形プロセスに与える 影響を解明する

■ 画像処理と力計測により技能者の作業手順と力加減を解析 ■ロボットにより押付け力を伴う材料の塗布動作を再現 ■ 材料供給システムと統合した一連作業の自動化を目指す

4. メイクアップ工程における技能者の塗布動作解析

熟練技能者の動作工程

熟練技能者の動作解析

3Dモーションキャプチャや, 力覚センサデバイスを用いて, 技能者の経験・感覚で成り立つ 巧みな手技動作を数値化する

■計測情報を基に動作工程を4つに分類 ■円弧近似を用いて動作軌跡を生成し、 押付け力制御により柔軟面に眉を描く

5. まとめと今後の展望

■モーションキャプチャや数値計算により技能者の動作や流体の挙動を解析 ■ 繊細な感覚に基づく液体操り動作をロボットに実装 ■ 技能者の高精度かつ多様な動作を精密計測とリアルタイム制御により実現